

2019年12月24日

保護者様

唐津市立佐志小学校
校長 原口 毅

体罰・いじめアンケート集計結果について（お知らせ）

今年度は、6月と11月に「教職員の指導に関するアンケート（体罰調査）」と「いじめに関するアンケート（いじめ調査）」を実施しました。保護者アンケートにご回答をいただいた数（回収率）は、6月【約91%】、11月【約94%】でした。たいへんお忙しい中にアンケートにご協力いただいた保護者の皆様、ありがとうございました。その結果と今後の対応についてまとめましたので、お知らせいたします。

体罰について

アンケートから「明らかに体罰ではないか」という具体的な回答はありませんでした。しかし、体罰（児童に圧力を感じさせるような指導も含む）の疑いのある報告が数件あり、その中で教職員個人が特定できるような内容については、保護者名は出さずに校長の方で聞き取りや指導を行いました。

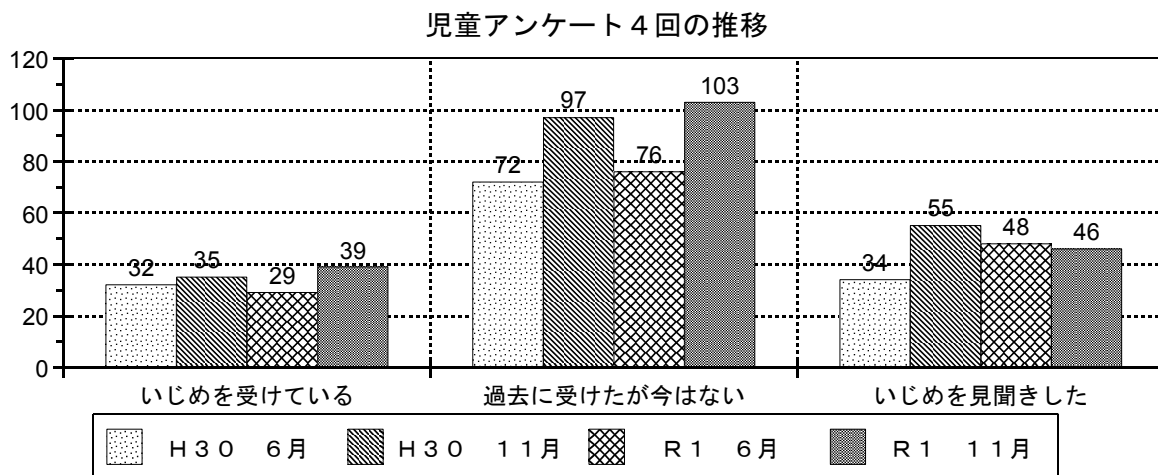
また、職員会議で「体罰は指導の放棄であり、人権を深く傷つける行為である」ということ、「注意が必要な場合も感情的になって怒らずに、相手に分かるよう叱る」ことを改めて確認しました。

時と場合によっては厳しい叱責を含んだ指導が必要な場合もありますが、体罰と懲戒（指導）の違いをはっきりと認識し、今後の児童への指導に生かしていきたいと思っております。

いじめについて

【児童アンケートの結果】（6月回収率 92%）（11月回収率 97%）

① 児童アンケート過去4回の推移



今年度6月と11月の調査を比較してみると、「いじめを受けている」と認識している児童数は増加傾向にあるといえます。ただし、数字そのままに「いじめが急増している」という捉え方はしていません。どの学校でもいじめの報告は急増しており、その背景には、いじめに対する社会の認識が高まっている影響が確実にあります。また、このアンケートで「いじめを受けている」「いじめを知っている」と回答した児童や関係する児童一人一人から担任が丁寧に話を聞き取り、適切な指導をしま

すが、その多くは「強い（感情的な）言い方をされた。」「悪口や馬鹿にしたように言われた。」などといったコミュニケーション（伝え方・伝わり方）のトラブルでした。

こうしたことが起こる原因の一つとして、次のような児童の姿が見られます。

- 友だちが嫌な気持ちになる言動をしているが、自分が傷つけているという認識が弱い。
- 自分が悪かったと思っても、素直に謝ることができない。（自分の「非」を認めがらない）
- 友だちの間違いを許せず、いつまでも責める。（自分との「違い」を認めがらない）
- 自分と違った考えを受け入れたり、折り合いをつけたりすることができない。
- 自己肯定感（自分を大切に思う、自分に自信を持つ）が低く、どこかイライラしたり、感情が不安定になったりしている。

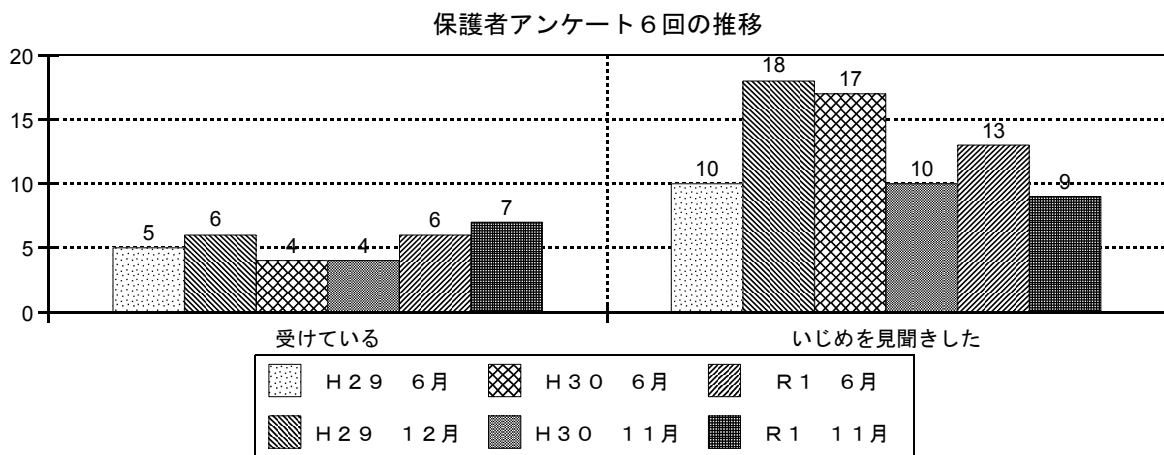
このように、良好な友達関係を築くために必要な力が十分に育っていない児童がいることが今回の結果に表れていると考えられます。そこで本校では日頃の生活指導や道徳の授業などで、「親切、思いやり」「正直、誠実」「相互理解・寛容」といったことを身に付けさせていくとともに、いじめは人の命を奪うこともある、絶対にしてはいけないことだということを継続して指導しているところです。

また、いじめを受けた側の立場にたって、その苦しさやつらさを自分なりに考える（想像する）ことで、いじめの不当性・不合理などを日常的に指導していきます。

さらに、聞き取った中には、いじめの兆候ではないかと思われるものもありましたので、より一層、日常生活の中で交わされる言動にアンテナを張り、嫌な思いをしている児童に話を聞いたり、友だちの嫌がることをしている児童には、その場で指導をしたりするなど、今後も注意深く見守っていきたいと思います。

【保護者アンケートの結果】（6月回収率 91%）（11月回収率 94%）

② 保護者アンケート過去6回の推移



今回（11月調査）と昨年度までの結果を比較すると、「いじめを受けている」と回答された数は微増傾向にあり、過去5回の中では最も多い数となりました。つらい思いをしている児童や保護者の方が増えているという事実を真摯に受け止めていかなければなりません。

一方、今年度の6月調査から11月調査にかけて「いじめを見聞きした」という回答がやや減少傾向にあり、過去5回の中で最も少ない数になっています。本校で取り組んでいる人権教育や道徳教育の効果が継続して生かされていると捉えることができます。

しかし、「わが子はいじめ（に近いこと）をされている。」「他学年ではいじめがあるそうだ。」と受け止めている保護者がおられることをしっかり把握し、本校が「いじめゼロ」の学校となるための取り組みを継続して行っていかなければなりません。

今回も「いじめを受けている」と回答された保護者のお子さんから、まず、担任が詳しい話を聞き、保護者とも連絡を取り合うなどして詳しく状況を把握し、対応をさせていただいています。今後もいじめを受けている可能性のあるお子さんの様子は、より注意深く見守り、明るい気持ちで学校生活が過ごせるよう支えていきたいと思えます。

また、「呼び捨てや乱暴な言葉づかい、嫌がらせ」「特定の子に対する仲間はずしや無視」「靴や持ち物を隠したり、嫌がらせのようにランドセルを持たせる」といった、保護者の方が見かけた児童の姿に驚かれた感想が寄せられています。「小さなことが日常的に行われている」ということを本校教職員は常に意識して、機会あるごとに学級活動や道徳などの授業の題材として取り上げ、児童に自己の生活を振り返らせたり、友だち関係づくりについて考えさせたりする工夫を取り入れていきます。

さらに近年、ラインやメール等による「いじめ」が顕在化・深刻化してきています。本校の携帯・スマホ所持率【1年（15%）、2年（32%）、3年（22%）、4年（42%）、5年（40%）、6年（48%）】は年々あがっており、それに伴ってトラブルも増えてきています。所持していても正しく・楽しく扱う児童もいれば、友だちを傷つけるアイテムとして使ってしまう児童もいます。自分自身をしっかり規制（コントロール）する力を身につけさせることが大きな課題ととらえています。

そのため、本校では毎年「携帯・スマホ安全教室」を開催し、利便性と危険性について講演会を設けることで、児童は正しい使い方を学んでいます。今後も学級・学年・全校指導を継続的に行っていくとともに、保護者対象の講演会も設定したり、懇談会やお便り等を活用して「SNSでのいじめやトラブル」について発信したりする取り組みを行ってまいります。

[佐志小学校いじめ防止基本方針より]

- 児童一人一人が認められ、お互いを大切にし合い、学級の一員として自覚できるような学級づくりを行う。また、学級のルールを守るといった規範意識の醸成に努める。
- わかる授業を行い、児童に基礎・基本の定着を図るとともに、学習に対する達成感や成就感を育てる。
- 思いやりの心や児童一人一人がかけがえのない存在であるといった「命」の大切さを、道徳の時間や学級活動などでの指導を通して育む。
- 「いじめは絶対に許されないこと」という認識を児童に持たせるため、学校教育のさまざまな活動の中で指導を行う。
- 見て見ないふりをすることは、「いじめ」をしていることにつながることや、「いじめ」を見たら他の先生方や友だちに知らせたり、やめさせたりすることの大切さを指導する。その際、知らせることは決して悪いことではないことも併せて指導する。

※資料「いじめに関するアンケート（いじめ調査）」より

保護者アンケートの声（抜粋） ※これらのご意見に対しても個別の聞き取りや学級全体に対する指導をしています。

- ◆ 友だちの靴を隠されると子どもが話していました。お迎えに行った時に、3年生の男子が、1年生の子の靴を隠している姿を見かけました。
- ◆ 下校時に、高学年の「ランドセル持ち」がとても気になり、見ていて嫌だなあと感じます。ジャンケンに負けたから持っているのか？嫌がらせなのか？とも思う。
- ◆ 給食当番の時に、給食着がなくなり、外にあったことがあると言っていました。「誰がさしたと？」と聞くと、はっきりは分かりませんが「○○くん」と話しました。

- ◆ いじめではないようですが、誰かと誰かがケンカをよくしていると聞きます。
- ◆ いじめの定義が難しいですが、自分が友だちに注意すると言い返されたり、反感をかったりしていることをとても嫌だと感じており、それでやり返されたりすると、本人は「私ばかりいじめる」と言っているようで、よく家で話をします。時々、ほうきなどでたたかれているとも言っていますが、まだ1年生ですし、感情的に動くことも分かっているので、もっとうまく友だちとつき合っしてほしいと思っています。ほうきでたたかれたりしているのが本当であれば、それはやめてほしいと思っています。
- ◆ 体を蹴られる、パンチされる、嫌なことを言われる（「お前はうんこ」、鼻水が出ているのを見て「汚い」と言われた）、話しかけても返事をしてくれない、仲間に入れてくれない。
- ◆ 同じクラスの子で、男の子が女の子をはさみうちにして、たたいたりけったりしているのを見たことがあると言っていました。
- ◆ 1学期の下校時（集団下校時）に「〇〇さんは友だちじゃない」と仲間はずれにされる子がいたようです。小学校に入りたてで、いじめという認識はないと思います。大人の目の行き届かないところでそういったことがあるので、集団で帰るルールや仲間はずれにしないことを伝えていただけたら良いなと思います。また、下校時に子どもが残っていないか、担任の先生以外も見回りをしてほしいです。
- ◆ いじめやそれ以外のいろいろな問題に対して、学校の授業でも大切なことをたくさん子どもたちは学んでいると思いますが、少しでも小さい頃からいろいろな考え方や気づきを得れる機会として、外部講師などの話を聞く場も、子どもも親も学べる機会となるので、あればいいなと思います。
- ◆ たたかれたり、からかわれたりしたことがありました。
- ◆ 4年生の男子が文句や悪口を言われていたと聞きました。
- ◆ いろいろとトラブルがあった時には、担任の先生がすぐに対処してくれ、子どもも安心しているようです。
- ◆ 友だちの体操服をかくされた時、自分の子どものせいに未だにされている。
- ◆ 集団での仲間はずれやチクチク言葉があります。
- ◆ 給食時に、友だち同士でゲップをしているそうです。それが嫌だということ言っていました。
- ◆ いじめではないと思いますが、友だちから「ぶりっ子」と言われたりして嫌な気持ちになっていると本人が言っています。
- ◆ 呼び捨てが多いのが子どもは気になるようです。
- ◆ 傷つくことを言われ、下校の際、一人で帰宅していました。また、高学年の人から文句を言われ、こわい思いをして昼休みは外で遊べませんでした。
- ◆ 先生のいないところでの言い合いがあります。また、発言の強い子に「調子にのるな」と言われたことがあります。
- ◆ 他の学年で、スマホでのいじめがひどいと聞きました。
- ◆ 悪ふざけでの悪口が度を超えていると思います。
- ◆ 友だち関係がうまくいかず、一人で本を読んでいます。また、ふたり一組とかなると、あまってしまう。
- ◆ 教科書や縄跳びがなくなった子がいると聞いたことがあります。
- ◆ 複数の「あだ名」で言われます。